



共生の時代

'11
12月

●発行:グリーンコープ共同理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号 カーニープレイス博多3階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



東京都生まれ。佐賀市在住。夫、長男(25)、二男(23)、夫の母の5人家族。親の会「ほっとケーキ」事務局。グリーンコープ生協さが監事。在宅福祉ワーカーズ「びすけつ」にも籍を置く

「玄海原発プルサーマル裁判の会」世話人

江口 美知子 さん

「子」 どもたちの未来のために。すべての活動の原点はここにある。原発反対運動にかかわるようになったのは約6年前。2006年3月、佐賀県知事が玄海原発へのプルサーマル導入を事前了解する直前、子どもへの影響を心配するお母さんたちで声をかけあい、プルサーマルの学習会を開いたのが最初だった。

「玄海原発プルサーマル裁判の会」(以下、裁判の会)は、玄海原子力発電所3号炉でのMOX燃料使用差し止めを求める裁判の原告団と、それを支える会とで構成。江口さんは裁判の会の世話人として多忙な毎日を送る。裁判に勝訴するためには世論の味方が欠かせない。一人でも多くの市民の理解を得るために、講演会や集会、デモを企画し、行動している。

「私が一番許せないのは、人権が侵害されること。原発はその最たるものだと思います」と語る。3月11日の原発事故は、多くの人から人間としてあたりまえの権利を奪った。「おかしいと思ったら声に出して発信しましょう。自分が感じたことを大事にしてほしい。じっと見ているだけでは何も変わらない」と熱く語る。眼差しの奥からは揺るぎない信念が伝わってくる。

江口さんの生き方に大きな影響を与えたのが、親の会「ほっとケーキ」(以下、親の会)の活動だ。親の会は、子どもの不登校や子育てに悩んでいる親同士が語りあい、支えあう会だ。10年ほど前、当時中学生だった二男が不登校になったことをきっかけにかかわった現在の、親の会や親の会が運営する子どもの居場所「ハッピーパーク」の事務局として、そこに集う親や子どもたちと共に過ごす。ある時スタッフ研修で、誰かに寄りそ

未来を守るために、発信しよう

2011年度 fromネグロス クリスマスキャンペーン



カネシゲファーム・ルーラルキャンパスで交流している東ティモールのコーヒー生産者

2面に関連記事

Contents

| | |
|---|-----|
| フィリピン・北部ルソン、インドネシア、そして東ティモールへネグロスから広がる自立支援 | 2 |
| うちのメーカー・うちの生産者 ⑭ | |
| (株)オルター・トレード・ジャパン ⑭東ティモールコーヒー | 3 |
| 「遺伝子組み換え(GM)食品は食べたくない」広がるGM汚染を止めて、消費者が求める表示を!! | |
| MOP5から1年後集会・食品表示一元化に向けた公開シンポジウム | 4・5 |
| 2011年度ファイバーリサイクル報告会 | |
| 私たち一人ひとりが衣類を送り、買うことで、ファイバーリサイクルの取り組みをすすめてみましょう! | 6・7 |
| 2011年度グリーンコープ地域運動交流集会 | |
| グリーンコープ運動が地域に寄り添い助けあい支えあって未来を拓くために | 8・9 |
| 脱原発講演会報告 | |
| 東京電力の原子力発電所の事故を直視し、今何をすべきか | 10 |
| みやざきで介護保険事業がスタート | 11 |

別紙にて、「放射能汚染と向きあう(放射能測定室より)」シリーズ(3)被災地復興の今を掲載

今年4月に副理事長となり、かわる取り組みの多さや、かわる人の多さに驚くと共に、学ぶことも多い。あっといふ間の半年でした。

初夏の頃より準備をはじめ、先日大盛況の内に幕を閉じたグリーンフェスタが今年最大の取り組みになったのではないかと思います。

当日、ステージ企画の食育戦隊「食ヘルンジャーショー」の中で、私はかわいい牛さんになり、「びん牛乳」をみんなに飲んでいただき



たいとアピールしました。それぞれ役になりきって、お米と野菜のいいアピールになったと思います。フェアリーサイクルや阿蘇グリーンストックなどのコーナーも多くの人で賑わい、予想以上の来場者とグリーンクラブの方々の努力により楽しい祭となりました。

今後もグリーンコープにかかわるみんなが楽しめるようなことを企画していけたらと思っています。

グリーンコープ生協くまもと副理事長
村山 華奈

2011年度 fromネグロス クリスマスキャンペーン

ネグロスから広がる自立支援

フィリピン・北部ルソン、インドネシア、そして東ティモールへ

ネグロスとの連帯25年の経験をつなぐ

グリーンコープとネグロスの25年

グリーンコープとネグロスとの出会いは今から25年前。世界的な砂糖価格の暴落で飢餓に陥ったネグロスの人々を救うための緊急支援からはじまりました。

そして、マスコバド糖やバナナの民衆交易など人々の自立を支える支援へと広がり、着実にネグロスの人々との連帯・共生の取り組みをすすめてきました。今では、フィリピン・北部ルソン、インドネシア、東ティモールへの支援へと広がっています。

10月3日、グリーンコープ共同組織委員会主催のfromネグロス学習会「グリーンコープとネグロスの25年、そしてfromネグロスについて」には組合員など130人が参加。グリーンコープとネグロスの25年の連帯の歴史やアジアへ広がっているようすについて話を聞きました。



交流しているカネシゲファーム・ルーラルキャンパスの研修生と東ティモールのコーヒー生産者



APLA現地駐在員 大橋成子さん

「魚ではなく、魚を取る網が必要だ！」

植民地時代が長かった「砂糖の島」ネグロス島。さとうきび農園労働者は低賃金で困窮を極める生活だった。そこに1980年代、砂糖の国際価格の暴落で飢餓が発生した。

1986年に日本ネグロス・キャンペーン委員会(以下、JCNCC)を立ち上げ、緊急募金に取り組んだ。はじめにネグロスを訪問したグリーンコープ前身生協の組合員は、飢餓でやせ細った子どもを抱いた時、その紙袋のような軽さに衝撃を受けた。「子どもたちを二度と飢えさせてはいけない」という強い思いから街頭募金などに取り組んだ。

やがて砂糖の国際価格が安定し、地主たちは農園を再開した。当時JCNCCは、救援活動を終えることがで

きると考えたが、ネグロス島の労働者からメッセージが届いた。「私たちに必要なのは、魚ではなく、魚を取る網なんです！」。魚は今日食べてしまうとなくなるが、網さえあれば私たちは漁に行ける。土地さえあれば、自分たちで米や野菜を作って生活できる。労働者ではなく、農民になりたいんだ」と。彼らの願いを実現させることは大変な挑戦だった。「とにかく民衆交易をやってみよう。日本で欲しいが作れないもので、海を越えて産直ができるものがないか」と考え、JCNCCとネグロス側と話し合いを重ねていった。現地の人々が昔から食べているさとうきびから作るマスコバド糖の輸入がはじまった。民衆交易は「南と北」

が共に支えあう関係をつくり出してきた。はじめはマスコバド糖の中に薬などの異物が混じっているものもあったが、それも受け入れられる「無条件の連帯」からはじまった。1990年にはバランゴンバナナの輸入もスタートした。

次世代へとつなぐために

そして、ふたたび飢えることのないように、さとうきび農園労働者は土地を手に入れ「農民」になっ

自立をはじめたネグロスの人々にとって、農業を軸にした地域づくりを次世代へどう引き継ぐかという課題が出てきた。無学で貧しいから農業をするのではなく、誇りをもって農業ができるように技術や知識を学ぶ農民学校として、2009年にカネシゲファーム・ルーラルキャンパスができた。BMW技術などを学んだ1期生が2010年に卒業した。ここで学ぶ若者たちがこれからの時代をつなぐていく。

グリーンコープは、ネグロスの人々が平和と希望を若い世代に繋いでいけるよう応援してくれた。グリーンコープとネグロスとの25年の歴史のなかで実現された「南と北の共生」が、今ネグロスから東ティモールなどへと広がっている。

人と人をつなぎ、連帯の輪を広げる



APLAスタッフ 野川未央さん

人と人が出会い、経験を分かちあう仕組みをつくる

JCNCCの22年間のネグロスでの経験を受け継ぎ、2008年にアジアの各地との連帯を模索し設立したのがAPLAだ。「アジアの人々をつなぎ顔の見える関係性をつくる」、「農を軸にして、自立できる地域をつくる」、「人々の出会いをつくり、経験を分かちあひ、協働する場をつくり出す」ことを目的としている。連帯は対日本だけではなく、フィリピン・ネグロス、フィリピン・北部ルソン、インドネシア、東ティモール相互間へと広がっている。フィリピン・北部ルソンでは地域の有機農業普及にも努め、BMW(生物活性水)を利用した堆肥生産もはじまっている。インドネシア

では、伝統的なエビ養殖池の水質を守るためのせつけん運動に取り組み日本の消費者と加工労働者との交流もすすめている。

交流で培ったことを実践

2002年に独立した新しい国、東ティモールのエルメラ県はコーヒーの一大産地だ。ポルトガル占領時代に整備された大規模農園が多く、コーヒーだけが収入源だ。生活は一向に良くならない。

APLAは、コーヒーだけに依存しない農業で成り立つ地域社会を東ティモールの人々と一緒につくるために、昨年11月に東ティモールの農民がフィリピンを訪問する交流プログラムを企画した。収入の多角化や有機農業を学習した。そして、まずは目標に向けてやってみることに、「ないものねだりではなく、あるもの探し」が大切であるとの叱咤激励を受けた。

東ティモールの農民が、交流プログラムから学んだ成功するカギは、「人がい

ること」、「土地があること」、「問題を乗り越える知恵と創意工夫」の3つ。今、東ティモール農民の合言葉になっている。フィリピン訪問後、ため池を造り、まわりに野菜を植えるなどの試験農場を作っている。交流の力はすごい。

コーヒー産地の

モデル地域をめざして

東ティモールの農民は、長雨や旱魃による被害が大きいなどの課題も抱えている。自立した農民になるためには、「良質な有機のコーヒー作りで安定した収入を確保する」、「自分たちが食べる作物の栽培を増やして現金支出を抑える」、「魚の養殖や養豚などをすすめる」、「地域産物の加工・販売などで家計を補助する仕事をつくることで、女性たちの自信につなげる」ことが重要だ。みんなのモデルになろうと東ティモールの農民は動き出している。

APLAはこれからも、アジアの仲間同士の交流と地域づくり、次世代農民の育成、それから民衆交易の輪をもっと広げていく。これからも、持続可能な地域づくりを支援していく必要がある。

※1ネグロスの飢餓を救済するために設立された日本のNGO

※2NPO法人 APLA

Alternative People's Linkage in Asia



フィリピン・ルソン島訪問 有機農法・収入多角化についてのレクチャー



フィリピン・ネグロス島訪問 カネシゲファームで研修生と交流

うちのメーカー

114

東京都新宿区
(株)オルター・トレード・ジャパン

うちの生産者

東ティモールコーヒー



ネグロスバナナをはじめとする、グリーンコープが取り組む民衆交易の商品を輸入しているのが、(株)オルター・トレード・ジャパン(以下、ATJ)です。

22年前、フィリピン・ネグロス島の人々の生活の自立のために設立され、現在ではアジアをはじめ世界の生産地と、大手資本に頼らない草の根の交易をしています。

11月(カタログGREEN29号)に登場した東ティモールコーヒーも、今なお現地ですべての生活をしている多くの人々を応援するため、グリーンコープがごしま生協と共同開発しました。

ATJのこれまでの歩みと、東ティモールのコーヒーについて紹介します。



東ティモールコーヒー ラオスブレンド



東ティモール生豆60%、ラオス生豆を40%ブレンド。まろやかな味わい

東ティモールコーヒー こだわり直火2度焙煎



2度焙煎することで豆の芯まで火が通り、豆の持つ本来の味が楽しめる

東ティモールコーヒー コクと酸味の 中深煎り



焙煎後に豆を酸化させない製法で、コクと風味が生きている

オルター・トレードとは、オルタナティブな(現状とは違う)交易という意味。多国籍企業や大手商社が交易を支配している現状とは違う交易のあり方をめざし、民衆交易を開始した。

ATJが設立されたのは、1989年。カンパという一方的な支援だけでなく、ネグロスの人々が自立できる仕組みづくりをするため、グリーンコープは、マスコバド糖に続きネグロスバナナを共同購入することにした。J CNCの活動を基盤とした輸入事業を行うため、グリーンコープをはじめとする各地の生協や団体の共同出資によりATJを設立した。

草の根の交易を通じ 現状とは違う社会を

深まる連帯

広がるネットワーク

深まる連帯

ている。

東ティモールで ATJがAPLAと取り組む 社会開発プログラム

コーヒー生豆の価格に設けている社会開発費は、いのち、暮らし、自然を守るための取り組みに活かされている。

- 貯金プログラム
計画的な貯金・支出管理の指導
- コーヒーの木のメンテナンス
収量増加のため
- 豚ローン
コーヒー代金の前払いとして豚を提供
- 若者の運転研修
運転手としての雇用創出のため
- ニュースレターの発行
生産者に有益な情報を提供

民衆交易で安定する 生産者の生活

東ティモールでは人口の約4分の1がコーヒー栽培で生計を立てている。一般にコーヒーの価格は国際市場で決まり、天候で作柄も左右されるため、生産者の収入はきわめて不安定。そこでATJは生産者と直接コーヒーの価格を決めている。また、現地に支払う生豆価格に社会開発費を設け、APLAとも協力してコーヒーだけに依存しない仕組みづくりを支援している。

ムを実践している。

2008年、J CNCはAPLAへと生まれ変わり、ネグロスから、ATJが交易するアジアの産地へとネットワークを広げ、連帯を深めている。APLAは輸出用のバナナやコーヒーだけでなく、頼らない多様な農業ができる地域づくりを支援。ATJはAPLAとも連携し、現地の人々が自立して暮らしていけるよう、地域の実状に合わせたプログラ



ATTのエバンゲリノさんとATJの担当者2人を迎えて、かごしまでは組合員をはじめ、職員や配送ワーカーも一丸となって東ティモールコーヒーの情宜に取り組んだ



ATJは、民衆交易を通して、社会のあり方を「現状とは違う」ものに少しずつ変え、それが「現状」になる未来に向けて、これからも活動を続ける。

ATJは、民衆交易を通して、社会のあり方を「現状とは違う」ものに少しずつ変え、それが「現状」になる未来に向けて、これからも活動を続ける。

シスコさんは「これまではコーヒーを売った後のことは何も考えていなかった。多くの人の手で加工され、日本でも多くの人の手がかけられてコーヒーが飲まれていることが、はじめて分かった」と、ATJとの関係の大切さを実感している。ATJの現地法人ATJ(オルター・トレード・ティモール)のエバンゲリノさんは「ATJはコーヒーを扱うだけでなく、生産者の生活の向上やよりよいコーヒー生産のための支援も行って、現地のコミュニティと良い関係を築いています」と言う。

ATJは、現地でのコーヒー生産者との交渉、加工の運営管理、輸出のための作業など、多岐に渉る業務を行っている。ATJはアドバイス・サポートの立場に徹して、現地のATJスタッフが主体的に働けるよう、業務全般を任せている。エバンゲリノさんはATJでコーヒーの買い付けから輸出手続までを行う責任者。「ATJの使命は、民衆交易を通して東ティモールの人々を変えていくこと。これからは外国の支援に頼らずに、精神的にも本

当の自立ができるよう努力していきたい」と、独立を経て発展する国の未来への夢を語った。

東ティモールコーヒーを かごしまと開発

東ティモールのコーヒーは、2007年「ロロサエコーヒー」として登場。好評だったが、「もっとおいしい、もっと利用しやすい東ティモールのコーヒーが飲みたい」という組合員からの声が高まり、グリーンコープがごしま生協で検討、開発。そして今年10月、3種類のコーヒーが誕生した。「東ティモールのコーヒー豆はとても品質が高く、焙煎方法や品質管理などにより、もっとおいしくなることが分かりました。そこでストレート2種、ブレンド1種を開発しました」とかごしまの商品検討委員長の堀切順子さん。また、出荷量を増やすことで現地での諸経費や輸送コストを抑え、値下げも実現できた。

「遺伝子組み換え(GM)食品は食べたくない」 広がるGM汚染を止めて、消費者が求める表示を!!

「国連生きもの会議」と呼ばれたCOP10、MOP5で国際的な合意は得られたものの、そのルールの多くはそれぞれの国内法にゆだねられている。集会では、この間の活動とGMをめぐる情勢について、それぞれの参加団体から報告があり、グリーンコープからは、15人の組合員が参加した。

名古屋MOP5の成果と今後の課題

食農市民ネットワーク運営委員

食と農から生物多様性を考える
市民ネットワーク主催

グリーンコープは、GM(遺伝子組み換え)技術が人と環境に与える影響を危惧し「遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン」と共に反対運動を続けています。

しかし、GM作物の栽培による汚染地域は世界中に拡大し、日本には毎年多くのGM食品が輸入されています。現在の食品表示ではGM食品かどうかの選択さえできない状況です。

そのような中、開催された「MOP5から1年後集会」と「食品表示一元化に向けた公開シンポジウム」取材し「GM問題の今」と「食品表示」について報告します。

MOP5から1年後集会

広がる遺伝子組み換え汚染

～急げ!国内法改正～

2011年
10月15日
名古屋

世界中で頻発するGM汚染を止めるために、私たちは今、何をすべきかを考えなければならぬ。

名古屋・クアラルンプール補足議定書で定められたこと

GM生物が輸入国で、在来種を駆逐したり交雑した

2010年10月に名古屋で開催された「カルタヘナ議定書第5回締約国会議(MOP5)」では、GM生物による被害の修復とそれにとりもなう賠償について定めた名古屋・クアラルンプール補足議定書の採択で大きな成果を残したと言える。しかし、責任を負う事業者の範囲については、各国の国内法にゆだねられる部分が多く、現行の日本の国内法では農業や人の健康は損害の対象外だ。国際ルールができて、国内法に欠陥があつては、規制の強化は望めず、目的に沿った国内法の改正や整備が課題となっている。

途上国が待ち望み、2004年から6年の歳月を経て全会一致で採択された議定書。私たちの暮らしにとってたいへん重要な条項であるにもかかわらず、マスコミで取り上げられることも少なく、ほとんどの市民はその重要性について気づいていないのが現状だ。名称の「名古屋」は昨年の開催地名から。「クアラルンプール」は、「責任と修復」に関する作業部会が開かれたマレーシアの地名に由来する。

国連生物多様性の10年市民ネットワーク(UNDB)の活動について

食農市民ネットワーク 副代表

原野好正さん

COP10・MOP5で、もつとも注目された大切な目標である愛知ターゲット

は、生態系保護のための歴史に残る合意とされる。その中には、私たち人類が自然と共存する世界をつくるために、2020年までに達成すべき20の目標が示されている。これについて国連は、2011年から2020年までを国連生物多様性の10年として、すべての機関で取り組む。UNDB市民ネットワークは、その目標を実現するための市民団体として活動している。

自身の問題と意識して、積極的に取り組むべきだ。愛知ターゲットに書かれていること

- ・世界中の陸地や海にある保護区の割合を拡大する
- ・森林を含む自然、生物の生息地の失われる速度を半分に減らすか、できるならゼロ近くに
- ・家畜や野生に近い種の遺伝子の多様性が維持され、保護するための方策を立てる
- ・国家会計に生物多様性の

観点を組み入れる…など生物多様性の損失のスピードを減少させる2010年までの目標の失敗を踏まえて、実効性のある緊急活動を求めている。

GMナタネ抜き取り活動の現場から

食農市民ネットワーク運営委員

名古屋を中心に過去7年間10回にわたり活動を続けている遺伝子組み換え食品を考える中部の会は、GMナタネが自然界に拡散し

ていることはもちろん、雑草との交雑など新たな問題も発生していると報告した。輸送の途中でこぼれ落ちた種から芽を出し、花をつけたGMナタネを市民の手で一株ずつ抜き取る駆除活動での成果は確かなものではない。しかし、検査にかかる経費の負担も大きく、市民レベルの活動にはすでに限界が見えている。一日も早い行政レベルの対策が望まれることを強く訴えた。

「世界で起きているGM作物による被害」

GMパイヤが、いよいよ日本の市場に

ハワイで作られているGMパイヤが、日本の市場に登場する。日本ではじめて生で食べるGM食品の登場となる。

「レインボー」という品種のGMパイヤは、パイヤの木を病気にさせるウイルスへの抵抗力を持つ。ハワイでは一般的に栽培、消費され、米国側が「安全性に問題はない」と日本に受け入れを求めていたもの。アレルギーを引き起こす可能性も指摘されているGMパイヤだが、日本の消費者庁は8月31日付で輸入解禁の主な手続きを終え、12月には市場に出回る。

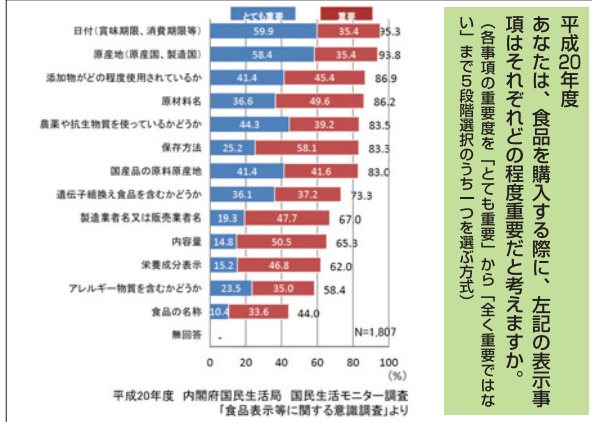
日本では今年4月に沖縄で台湾からの未承認のGMパイヤ種子が流通していたことが発覚し、在庫の廃棄や栽培中のパイヤを伐採処分しなければならぬ事態が起きたばかり。GMパイヤの検査法を確立するために沖縄産のものを試験的に分析したことで明らかにした沖縄のGMパイヤ問題は、生物多様性への被害はもとより、農家の経済損失も大きく、それに対する政府の補償もないままになっている。

西オーストラリア州でGM汚染広がる

今年8月、西オーストラリアで22tのGMナタネ種子を運んでいたトレーラーが火災を起こし、その熱で荷台に穴が開き、道路上にGMナタネ種子がばらまかれるという事故があった。トラックが走った道路に沿い、数kmにわたってばらまかれたGMナタネ種子の量は15tにもなる。トレーラーを管理する業者は現場周辺の汚染の範囲を調査し、表土を取り除く作業にあたったが、ばらまかれたGM種子は他の車両のタイヤや野鳥によって運ばれ、さらに拡散したことは必至。その後の他団体の調査では、雨による発芽も確認されている。近くにはGMでないナタネを栽培する農家もあり、交雑の危険性は高い。いったん広がると取り返しのつかない状態になってしまうのがGM汚染。それを実証する事故がまた起きてしまった。

食農市民ネットワーク共同代表 天笠啓祐さん

図表1



あなたは、食品を購入する際に、左記の表示事項はそれぞれどの程度重要だと考えますか。(各事項の重要度を「とても重要」から「全く重要ではない」まで5段階選択の「1」～「5」を回答方式)

平成20年度、食品を購入する際に、左記の表示事項はそれぞれどの程度重要だと考えますか。(各事項の重要度を「とても重要」から「全く重要ではない」まで5段階選択の「1」～「5」を回答方式)

GM農産物だけではなく、それらを原材料として製造された加工食品には、GM飼料を食べて育った畜産物や、養殖魚、およびそれらを原材料として製造された加工品、また原材料の中には副材料や添加物もある。食品ではないが、種子や飼料についての表示も必要と考えられる。GM食品に不安を持ち、食べたくないと思う多くの消費者にとって、商品を選ぶことができない表示になっているのが、現行の食品表示だ。

日本の現行のGM食品の表示

多くの消費者、生産者が表示を求める活動を行った結果、2001年4月に農林水産省のJAS法のもと、GM食品の表示が実現した。その後、厚生労働省の食品衛生法による表示も加わった。

しかし、これはGM食品を避けたいと思っても避けることができない表示制度だともいえる。輸入GM作物がもつとも使われている食用油や醤油には、表示義務がない。また、加工品である豆腐や納豆もGM大豆の意図せざる混入は5%以内であれば「遺伝子組み換えでない」と表示することができてしまう。これが日本の現行の食品表示制度だ。

GM農産物だけではなく、それらを原材料として製造された加工食品には、GM飼料を食べて育った畜産物や、養殖魚、およびそれらを原材料として製造された加工品、また原材料の中には副材料や添加物もある。食品ではないが、種子や飼料についての表示も必要と考えられる。GM食品に不安を持ち、食べたくないと思う多くの消費者にとって、商品を選ぶことができない表示になっているのが、現行の食品表示だ。

2011年
11月11日
東京

もっと分かりやすい食品表示を ～食品表示一元化に向けた公開シンポジウム～

呼びかけ団体
特定非営利活動法人日本消費者連盟
食の安全・監視委員会
遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン



基調講演
食品表示を一元化する「食品表示法」とは

食品表示に関する主な法律の一つ食品衛生法は、私たちの国民の健康で文化的な生活を保障する憲法25条が根拠になっている。憲法13条(国民の幸福追求権)には、すべての国民が生命、自由、幸福を追求する権利は国政の上で最大の配慮をされなければならないと明示されている。これが消費者が安全で安心な食生活を営む権利の根底にあるものだと思っている。

もう一つの柱になるのはJAS法。農林物資の規格化や品質表示に関する法律であり、消費者の権利については何も触れられていない。

**知る権利、選択の権利を
新たな食品表示法を作る**

なぜ今、食品表示の一元化なのか?
私たちが毎日食べているものは、何を原料にどこで作られているのか、消費者として正しい情報を得たいと思うのは当然のことだ。

しかし、2007年から発生している食品表示の偽造問題や原産地偽装事件などにより、消費者の信頼は大きく揺らいだ。表示に使われている用語も統一されず、消費者にも事業者にも

2012年度中の食品表示の一元化をめざし、消費者庁内で、「食品表示一元化検討会」が設置され(2011年9月)、具体的な検討がはじまっている。懸案であったGM食品表示の改正はもとより、クローン食品表示、加工食品の原料原産地表示など食品表示法のあり方について考え、語りあうシンポジウムがあり、グリーンコープからは19人の組合員が参加した。

分りにくいものになっていく。シンポジウムでは、さまざまな立場や考え方の人々が結集し、食品表示の一元化についての講演、報告があった。

神山 美智子さん
食の安全・監視市民委員会代表。弁護士。1981年に食品安全基本法の提言を発表して以来、食品の安全問題に関わり続けている。

食の安全・監視市民委員会
市民の立場から食品安全行政を監視するため2003年に設立。特定の団体に属さず、専門家と連携し、市民の立場から厚生労働省や農林水産省へ提言し続けている。

からには、消費者の権利を守る法律にしてほしい。また、現行の食品衛生法には「表示に不備があるとき」には申し出ることのできる制度」を新法に入れるべきだ。

これから消費者庁で検討を重ね、必要な表示が分かりやすくなったとしても、それを使いこなすのは私たち。食品表示にある値段や消費期限、内容量を見るだけにとどまらず、それ以外の表示にも大事なことがたくさん書かれている。私たちは、これから消費者庁で続く議論に関心をもち、意見を言い続けていくべきだ。

パネルディスカッション
消費者が考える食品表示の一元化

消費者庁としては、数多い食品に関する法律の中で、単純に食品衛生法とJAS法の二つだけをいっしょにするだけでなく、健康増進法など食品にかかわる表示すべてを視野に入れて議論したいと考えている。原料原産地表示や栄養成分表示は義務化する方向で、来年度中の法案提出を目指している。食品表示に不備があった場合の意見を受け入れられる「申出制度」も、新しい法律に取り入れるべきだ。



基調報告
食品表示制度の一元化に向けた消費者庁の取り組み

9月と10月の検討会では、「シンブルに必要最低限の表示だけにしたい」と主張する派と「すべて細かな情報まで、びっしり表示すべきだ」とする派があり、

さまざまなニーズに応えるべく、冷静で具体的な議論が必要だと思ふ。日本より厳しいEUなどのGM表示方法を取り入れるかどうか、この検討会の重要なテーマだ。事業者と消費者、政府または専門家が情報を共有することが基本になる。その上で「知る権利」「選択する権利」が成り立つのだと思ふ。

今、社会を生活者・消費者のものと考え、行政も社会の仕組みも転換していくような消費者行政が求められている。その一つに食品表示があると考え、なるべく多様な意見をもらえる体制で議論していきたい。(参考資料 図表1)



パネリスト
山根 香織さん(主婦連合会)
立石 幸一さん(全国農業協同組合)
島田 光雅さん(光食品株式会社)
神山美智子さん
コーディネーター
山浦 康明さん(日本消費者連盟事務局長)

消費者庁長官 福嶋 浩彦さん
元千葉県我孫子市長
2010年より現職

島田 光雅さん
40数年前から、無添加、有機原料でソースなどの製造販売をしている光食品株式会社代表取締役

2009年に消費者庁が設置される以前は、自社商品のラベルを作るために、それぞれの法律の管轄機関に確認を取らなければならず、その回答が異なるという場合もあった。消費者庁設置以降は一括して確認ができるようになった利点はあるが、回答があいまいだったり、法律に明確に記載されていない事項は消費者庁から業界団体へ確認するように指導される場合もある。メーカーとしては食品表示制度が一元化され、表示内容の回答が明確に得られることを望む。

立石 幸一さん
全農 食品品質・表示管理部部长
食品表示一元化検討会委員

近年、急速に外国産の食品が輸入されるようになり、さまざまな食品表示の問題が出てきた。すべての加工食品には原産地表示を義務づけるべきだ。今の状況では、私たちは知らないうちに相当な量の外国産の食品を食べている。使用した外国産原料の原産地をはっきり表示すると消費が減少するからと、表示の改正に反対する業者も多い。

しかし、業界全体が法律で義務化された場合、輸入原料を国産と偽って販売する業者と、主体的に国産品に取り組んでいる業者との間の不当な価格競争は軽減され、長い目で見れば最終的に消費者のメリットになると考えている。

山根 香織さん
2008年より主婦連合会会長
食品表示一元化検討会委員

2回の検討会に出席したが、関係する省庁(農林水産・厚生労働・国税)も同席して議論するべきだ。まずは幅広く表示のあり方の全体像を共有し、それから分りやすさの議論に入るといい。

GM食品は、醤油や油などの加工食品にも表示を義務づけてほしい。違反行為を予防するためにも厳罰を求めたい。消費者の代表として参加し、より多くの消費者の意見を反映させたいと思っている。

を送り、買うことで、 り組みをすすめましょう！

子どもたちの教育

衣類のリユース・リサイクル

2010年秋にスタートしたグリーンコープのファイバーリサイクルの取り組み。ファイバーリサイクルセンターが開設され、衣類を送る支援の輪はオールグリーンコープに広がっています。

1周年を記念して、2011年10月25日、福岡市にて報告会が開催されました。

今回、パキスタンの学校アル・カイルアカデミーを主宰しているムザヒル校長を招き、教育にかける思いやパキスタンの教育現場の状況などについての話を聞きました。報告会のように1年間の取り組みについて紹介します。

ファイバーリサイクル事業部からの報告 ーファイバーリサイクル この1年の成果ー



社会福祉法人グリーンコープ
ファイバーリサイクル事業部
事務局長 行岡 みち子さん

2010年9月に開始してから2011年10月15日までの、この取り組みへの参加者は延べ4,029人(4,011人と18団体)、送付された衣類の総重量は49.6tにもなりました。

この1年、①抱樸館福岡の同居者が地域で自立して生活し、就労するまでの期間を支援する②パキスタンのカラチ市のスラムに住む子どもたちの学校を支援する③グリーンコープ組合員によるリサイクル運動の活性化という3つのテーマを掲げて取り組み、それぞれ

2010年9月に開始してから2011年10月15日までの、この取り組みへの参加者は延べ4,029人(4,011人と18団体)、送付された衣類の総重量は49.6tにもなりました。

この1年、①抱樸館福岡の同居者が地域で自立して生活し、就労するまでの期間を支援する②パキスタンのカラチ市のスラムに住む子どもたちの学校を支援する③グリーンコープ組合員によるリサイクル運動の活性化という3つのテーマを掲げて取り組み、それぞれ

2010年9月に開始してから2011年10月15日までの、この取り組みへの参加者は延べ4,029人(4,011人と18団体)、送付された衣類の総重量は49.6tにもなりました。

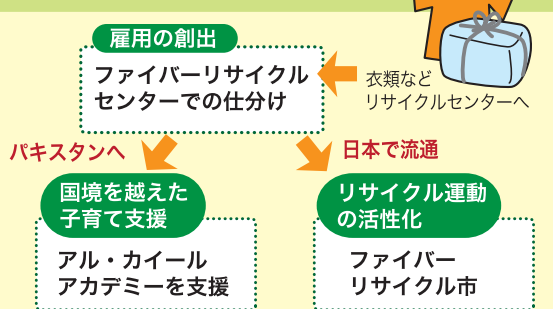
この1年、①抱樸館福岡の同居者が地域で自立して生活し、就労するまでの期間を支援する②パキスタンのカラチ市のスラムに住む子どもたちの学校を支援する③グリーンコープ組合員によるリサイクル運動の活性化という3つのテーマを掲げて取り組み、それぞれ

グリーンコープのファイバーリサイクル

グリーンコープがNPO法人JFSA(日本ファイバーリサイクル連帯協議会)と連携してファイバーリサイクルの取り組みをはじめたのは、2008年。パキスタンのスラムに暮らす子どもたちを支援するため、各単協で衣類を集め、千葉のJFSAからパキスタンへ送っていました。

2010年秋、「国境を越えた子育て支援」に加え、「新しい雇用の創出」、「衣類のリユース・リサイクル」に取り組むため、グリーンコープは独自でファイバーリサイクルをはじめました。

ファイバーリサイクルの流れ



どの子どもにも人間としての尊厳が与えられるべきです

校舎も立派になり、理

さがからの報告

この取り組みに一人でも多くの参加を！



グリーンコープ生協さが
理事長 田中 裕子さん

さがは、(長崎)と共に、2010年4月にJFSA理事長の田邊さんと事務局長の西村さんを講師に、学習会を開催、パキスタンの現状とこの取り組みの意義を確認するところからはじめました。

その後、常任理事会メンバーのJFSA視察、行岡みち子さんを講師に迎えた学習会、理事会メンバー

さがでも、一人でも多くの組合員がこの取り組みに参加できるように、継続してすすめていこうと思っています。

JFSAからの報告

ファイバーリサイクルの広がりがスラムに暮らす子どもたちの自立を支えます



日本ファイバーリサイクル連帯協議会(JFSA)
理事長 田邊 紀子さん

中古衣料のリサイクルは「豊かな国」から「貧しい国」への輸出で成り立っています。こうした事情を背景に1995年JFSAは古着(衣類)のリサイクルを立ち上げ、事業収益でパキスタンの子どもたちの自立を支えることを目的とした活動をしていきます。昨年より卒業生の女の子が働く縫製工房をアル・カイルアカデミー、アル・カイルアカ

その後、アル・カイルアカデミーで学びを得た子どもたちを中心に、暮らしを支えあう関係がスラム地区につくられ、ファイバーリサイクルによる自立支援を通して、その動きにさらに深まりと広がりが持てるよう、これからもよろしくお願ひします。

※衣類を売るためにムザヒルさんが立ち上げた事業グループ

ムザヒル校長インタビュー

変わらない教育への情熱、広がる夢

ムザヒルさんの教育への気持ちを支えているものは何ですか？

パキスタンは貧富の差が激しく、カラチ市の約8割がスラム街。子どもを労働力と頼っている親たちは、最初は学校に通わせることに反対しますが、教育を受けることで話し方や座り方など普段のふるまいから変わっていく子どもの様子を見て、少しずつ意識が変わっていきいます。



ごみ捨て場に住み、ごみを拾う仕事をする子どもたち。カチラクンディのごみ捨て場にも、アル・カイルアカデミーの分校がある

私は、現在もすべての教科書を自身で書きしめています。子ども一人ひとりに個性があり、才能があります。内に秘めている才能をどうやったら引き出せるのか、いつも

多くの人が私の取り組みに期待し、多くの仲間が助けてくれています。この期待とつながりが、夢の実現を後押ししてくれます。グリーンコープのファイバーリサイクルもそのつながりの一つです。

衣類を購入した組合員によるファッションショーが開催されました



きれいな状態で買えてお徳だった

いつでも利用できるようなショップが今後できたらいいと思う

まだ利用していない組合員もぜひ利用してみてください

日ごろは買わないデザインの服も、手ごろな価格なので買ってみることができて楽しい

2011年度
ファイバーリサイクル
報告会

私たち一人ひとりが衣類 ファイバーリサイクルの取組

抱樸館福岡入居者の雇用

パキスタンの

アル・カイル アカデミーからの報告

子どもたちに教育を



アル・カイル アカデミー
校長 ムハマッド・ムザヒル

系カレッジなどの専門
学校もできました。こ
れまでに数百人がマ
トリック（大学入学資格）
を取得し、数千の女子
が教育を受けてしまし
た。スラム地区ではこ
れまで考えられなかつ
たことです。子どもが教育
を受けたことで、家族全体
の人生が大きく変わった家
庭もあるなど、これまでに
1万人以上の人々の生活向
上に貢献できたと感じてい
ます。

私はパキスタンの中間階
層の家庭に育ち、カラチ大
学で理学修士を取得しました。
子どもの頃から近隣の貧し
い家庭のあらゆる小さな問
題を解決する努力をしてき
ました。20年ほど経済的な
援助を続けましたが、無教育
麻薬、ギャングがはびこる
環境の中で、貧しい人々の
生活を改善することはでき
ませんでした。彼らの抱
えている悪環境を変えるには、
子どもたちを教育し、生き
ていく上で必要な知識や行
儀作法を教えることが最良
の方法だと思に至りました。
1987年、カラチ市の
スラム地区で、10人の子
どもを教えることから始め
ました。当時その地区はど
ても治安、環境が悪く、無
教育のために人々は大変蔑
まれていました。子どもた
ちにも教育を受けたいとい
う意欲はありませんでした。
私は子どもたちが自分の名
前を書けるだけでも、大変
な進歩だと思っていました。
しかし、子どもたちとわか
わるうちに分かってきたのは、
どこの国で生まれようと、
どんな経済状態の家庭に生
まれようと、真の愛情と心
からの熱意でぶつかれば、
子どもたちは応えてくれる
ということでした。どんなに
貧しい子どもたちにも、人
間としての尊厳が与えられ
るべきです。

現在アル・カイル アカ
デミーでは2500人の子
どもたちが学んでいます。

1995年、パキスタン
を訪問した西村さん（現J
FSA海外事業担当）に初
めて会いました。彼は「寄
付金だけで学校を運営す
るのは難しい。何か事業を起
こした方が良いでしょう」と
アイデアをくれました。
私は日本から衣類をパキス
タンに輸入してそれを販売し、
アル・カイル アカデミー
の子どもたちのために使う
ことを決めました。JFSA
が日本で衣類を集めてパ
キスタンに送る事業をはじ
め、私たちも衣類を売って
徐々に利益を上げることが
できるようになりました。
それをパキスタンの教育向
上のために使うことで、テ
ロや物乞いなどを減らすこ
とも貢献しています。アル
・カイルの経費を賄うた
めにも、この事業を拡大さ
せなければと思っていま
す。グリーンコープのみな
さんとの連携によって、さ
らに数千の子どもたちが、
教育が照らす明かりで輝く
ことを願っています。

衣類販売で運営費を捻出

女性の自立のための縫製工房センターを設立

ムザヒルさんはJFSAの協力で女性の自立た
めの縫製工房センターを設立。縫製技術向上に
協力するため、グリーンコープ（福祉ワーカー
ズ連合会）はエプロンをオーダーしました



でき上がったエプロン。動きやすいよう
前にスリットが入っている。ポケットには1
枚ずつ違う刺繍のワ
ンポイント入り

縫製工房の収 益で教育を広 めたい



タスニーム・ムザヒルさん
アル・カイル本校校長
縫製工房スーパーバイザー

貧しいパキ
スタンの国を良く
するためには、
子どもたち、特
に女子の教育が
重要です。

確かに教育を広めるためには資金
をつくらねばなりません。そのため
には事業を起こしその収益で教育を
行うのが最良だと思います。縫製の
事業を起こし、その収益でスラムで
暮らす子どもたちにより良い教育を
与えていきたいと思っています。

縫製工房を成 功させるため 全力で努力し ます



サルマさん
縫製工房指導者

1987年にアル・
カイルに入学
できたことを幸
運に思います。
アル・カイル
の縫製工房で女
性たちを指導、監督し、グリーン
コープから受けているエプロン製
作を完成させようとしています。
この工房を軌道に乗せるために全
力で努力します。現在は7人の卒業
生と仕事をしていますが、将来は
100人が働くことを夢見ています。

アル・カイル のために役立 つ仕事をした い



ムハマッド・サリムさん
アル・カイル
理系カレッジ学生

私の家は貧し
く、働くため学
校をやめようと
したこともあり
ましたが、ムザ
ヒル校長が私の
家族をしっかり援助してくれたので、学
び続けることができました。同じように
貧しく学校に行けない数千の子どもも、
そのチャンスを得ています。
卒業後、貧しい農村に行くチャンスが
あれば、アル・カイルで学んだことを
役に立てたいと思っています。

アル・カイル アカデミーの メンバーが、ファイバ ーリサイクルセンターで 交流会をしました



左は福岡在住の
通訳のシャジー
さん

ファイバーリサイクルセンターで仕分
け作業をした組合員や抱樸館福岡の
協力者との交流会。カレーを囲んで
和やかな雰囲気の中で行われた

考えています。その才能
が子どもから発せられる
時の喜びは、たとえよう
がありません。それがこ
の仕事を続ける力となっ
ています。
今回の訪問に同行した
サリムのような子ども
たちが成長し、自立をは
じめています。これは、
パキスタン全土からする
と小さな変化ですが、大
きいことをするために
小さいことの積み重ねが
大事だと思います。これ
からアル・カイルの学校
をパキスタン中に増やし
ていきたい。そして同じ
志の仲間と世界中に広げ
ていきたいと思っています。

添い 拓くために

2011年10月26日、7回目の地域運動交流集会在福岡市で開催され、組合員とワーカーズなど約900人が参加しました。

前日に行われたファイバーリサイクル学習会に続き、パキスタンのアル・カイルアカデミー校長のムザヒルさんから現地のようにすについて報告(詳細は本紙6・7面)がありました。

また、2011年3月に起きた東日本大震災後、グリーンコープが漁業復興支援を行っている宮城県石巻市蛤浜の区長亀山秀雄さんの挨拶、共生地域創造財団の事務局からの支援状況の報告(詳細は別紙裏面)がありました。さらに、東京電力の原子力発電所での事故による深刻な放射能汚染が広がる現実をきちんと知り、私たちはどう行動していくべきかを考えるために、藤田祐幸さんによる脱原発講演会(詳細は本紙10面)もありました。

より豊かに広がっているグリーンコープ運動を参加者一同で共有すると共に、厳しい現実もある中で、一人ひとりができることをしながら、協同の力を生かして活動していくことを確認する集会となりました。

参加者
組合員
ワーカーズ
代理人 ネットワーク
職員他

来賓
厚生労働省 社会・援護局
地域福祉課長
矢田 宏人さん

グリーンクラブ
相談役 川上 工さん
他7人

縁をつむぐ会
相談役 田島 いづきさん
副会長 後藤 美穂さん
パキスタンのアルカイルアカデミーより
校長ムザヒルさん他3人
宮城県石巻市蛤浜より
区長の亀山秀雄さん
昭子さん

共生地域創造財団より
事務局の小笠原啓太さん
岩手事務局の大関輝一さん

実行委員長挨拶



グリーンコープ共同体代表理事 田中 裕子さん

2005年からはじまったグリーンコープの地域運動交流集会は今年で7回目となります。組合員とワーカーズが一堂に会して、グリーンコープの食への運動や地域福祉などについて報告しあい、交流を図ることで、組合員とワーカーズ、ワーカーズ間の連携を深めていく場となりました。

今回は、組合員、各業種のワーカーズ、代理人・ネットワークなど、約900人が参加しています。「グリーンコープ運動が地域に寄り添い、助けあい、支えあって未来を拓くために」という今回のテーマのように、ここに集う一人ひとりの出会いと想いを集めて力強くすすんでいきたいと考えています。本日の集いが明日からの生きる力となり、希望ある未来に向かうことができる会になることを願っています。

抱樸館福岡報告

抱樸館福岡 開設から1年



社会福祉法人グリーンコープ 副理事長 奥田 知志さん

抱樸館福岡は、「抱樸館を支える会」をはじめ、たくさんの方の支援をいただきながらこの1年を過ごしてきました。その間に、多くの方がここから新たな人生を踏み出しています。

この1年の歩みの中で私たちが胸を張ってお話できることの一つとして、地域との連携があります。抱樸館福岡は、単に居住や就職の支援だけでなく、地域とのかかわりや人と人とのつながりも含めた人生支援、そして私たちが共に暮らす地域の再生をめざしています。開所時に地域の方々から贈られた桜の木も、今年の春、ほんの数輪ですが花を咲かせました。

これまでの入居者の総計は400人を超えます。その過半数が20~50代のいわゆる働き盛りの年齢層で、就労支援が今後の大きな課題となります。現在、ファイバーリサイクル事業と連携して入居者の就労体験をすすめています。その一つとして、今回の大震災で組合員から託された支援物資の仕分けも担いました。入居者にとっては、支えられるばかりの立場から、被災地を支える側にまわることが、社会復帰のきっかけにもなりました。

非正規雇用の職場で「お前でもなく、誰でもいい」と言われ続けた多くの若者が、「誰でもいいから自分の存在を認めてほしい」と叫んでいます。同じ思いは私たちの心の中にもあります。「誰か」を探し求める多くの叫びに、「私たちがいる」と応えるために、抱樸館は存在します。そこには痛みも伴いますが、ぜひ一緒に、その叫びに応えていきましょう。

単協報告

お米と野菜産地との 交流を生かして



みやざきの発表のようす

4月の「お米と野菜のスタート集会」を皮切りに、組合員と生産者との交流をすすめています。お米をもっと身近に感じる取り組みの一つとして、120人の組合員がバケツで稲を育てることに挑戦中。稲刈りがとても楽しみです。「九州むらせ視察交流」では、毎日産地から届く米の徹底した品質管理を知り、精米メーカーの思いが伝わってきました。秋の組合員の手づくりでは、生産者から草取り作業の大変さや、安心安全なお米作りの工夫を聞きました。質問もたくさん出て楽しい交流ができました。各地区委員会は今後、「お米と野菜を食べよう」のテーマに沿って組合員と生産者が交流し、絆を深め、利用を呼びかけていきます。

みやざき

最初のお店のオープンに向け、 楽しい夢がいっぱい



さかの発表のようす

「お店共同購入をはじめ、さかの今年度の大きな方針。ワーカーズ学習会や店舗視察などを行い、1号店はキープ組合員が100人いる鳥栖センターと決めました。ワーカーズ立ち上げの中心メンバーも決まり、来年2月のオープンに向け、どんなお店にしたいか、どんな商品を置きたいかなど、いろいろなイメージを出しあっては盛りあがっています。「本を置いたり、メーカーさんとの交流会をしたりすれば、みんなが来てくれるようなお店になるかな」など夢が膨らみます。秋のグリーンパーティーでも組合員からたくさんの方の意見や要望が出されました。お店の名称は組合員から募集し、みんなが決めたいと思っています。オープンに向け頑張ります。

さが

「お店改革プロジェクト」 がスタート。もっとお店を 良くしたい!



おおいたの発表のようす

おおいたにある4つのお店に共通する課題点と各店舗の課題を解決し、もっとお店を良くしたいと、2010年秋に「お店改革プロジェクト」がスタートしました。理事会あげての取り組みによって、高城店ではか買えなかったワーカーズのパンが他の3店舗でも買えるようになりまし。いずれは共同購入でも出せるようになればと考えています。山積する課題を解決し、私たちのテーマ「愛する人に食べてもらいたいパン」を作り続けたいと思っています。プロジェクトでの検討で、パン部門の経費の課題が解決するなどの改善もすすんでいます。組合員とワーカーズが共に、組合員が来なくなるお店づくりに頑張ります。

おおいた

共同購入ワーカーズ連絡会



共同購入ワーカーズは713人。商品の配達やキープ、地域組合員の対応など従来の業務に加えて、物流業務や総務・経理などデポすべての業務を担うようになってきています。今夏、かごしまでグリーンコープ初の男女協同ワーカーズ「ピース」が誕生しました。「みんなで作る最高の職場」を目標に目安箱の設置や持ち回りのニュース作成など頑張っています。ふくおかとくまもとでは、すべての支部で共同購入ワーカーズが業務を担うまでに広がっています。今後もワーカーズの主体性を大切にした、新たな働き方をめざしていきます。

2011年度グリーンコープ地域運動交流集会

グリーンコープ運動が地域に寄り 助けあい支えあって未来を

福祉関係ワーカーズ



地域福祉を担うワーカーズ

生活のいろいろな場面で活動するワーカーズの様子を熟演

「住み慣れた地域で、赤ちゃんからお年寄りまで、誰もが心豊かに自分らしい生活を送ることが出来る」そんな願いでスタートしたグリーンコープの地域福祉を、ワーカー約2500人を担っています。「ふくし情報でんわ」「ケアプランセンター」「在宅福祉」「福祉用品店舗」「子育てサポート」「食事サービス」「デイサービス」「小規模多機能ホーム」「グループホーム」「有料老人ホーム」と、さまざまなサービスがあります。生活のいろいろな場面で、組合員が困ったときに安心して相談できるように、これからも生活者の視点とワーカーズのやわらかい手で、福祉サービスを提供していきたいと思ひます。

まとめ



福祉ワーカーズ・コレクティブ連合会 理事長 江島 真弓さん

今年3月に起きた大震災と原発事故。現実には本当に膨大であり、人間はずばらしい反面なんとおろかなのだらうと考えさせられました。私たちは被害者であると同時に加害者でもありません。地球に生きる人間としてできることをしていく、そういうことでしょうか、この膨大な現実立ち向かうこ

とはできないと思ひます。私たちは今、組合員は組合員として、ワーカーズはワーカーズとして、職員は職員として、それぞれがすべきことをきちんとやり抜いています。一人ひとりができることをして、まなじり上げて、連帯の力をより強くし、したたかに、しなやかに、現実の中を生き抜いていきたいと、改めて思ひました。どの報告も大変すばらしく、助けあい支えあい、そしてグリーンコープ運動が地域に広がっていくという今回のテーマにふさわしい内容の集会でした。約900人が集い、これまでで最大で最高の会となりました。

代理人・ネットワーク運動報告

代理人運動は、暮らしの課題を解決するために、議会に代理人(議員)を送り出してきました。現在、福岡県内には9つの地域ネットワークがあり、6人の代理人が活動中。熊本県には2つの地域ネットワークがあり、1人の代理人が活動しています。今回の原発事故は私たちの生命と暮らしにかかわる重大な出来事です。今こそ、「原発を止める」ために、政策決定の場である議会に生活者の声を届けなければならぬと強く思ひます。「これ以上、水や大地や食糧を放射能で汚してはならない」。次の世代のために何が出来るかを一人ひとりが真剣に考えて政治に参画することが必要です。そのために、組合員、ワーカーズと共に代理人運動を広げたいと思ひます。

食育の会 わくわく



子ども料理教室の様子

2006年からくまもと37地区で開催してきた「子ども料理教室」の経験を基に、今年4月にワーカーズとして新しい一歩を踏み出しました。子ども料理教室では、まな板の上の魚に包丁を入れることができなかった子どもが、スタッフのサポートで調理し、食べ、「おいしい」と笑顔になります。五感を使い自分で調理することで自信や達成感を得ながら生きる力をつけてほしいと活動をはじめました。私立幼稚園や店舗での料理教室など地域への広がりを見せています。これからも活動をお楽しみさせていただきます。

店舗ワーカーズ連絡会



お店での試食の様子

グリーンコープエリアにはワーカーズが運営するお店が30店舗あり、約500人のワーカーが活動しています。現在、お店を地域の大きな班として捉える「お店共同購入」へと大きく生まれ変わるための取り組みがすすんでいます。そのためには、お店が地域の組合員のものになるように、多くの組合員がかわつてのお店づくりが必要です。ふくおかでは「わくわくワーク」で組合員が店の仕事を手伝ったり、お店のまつりなどにも一緒に取り組んでいます。くまもとでもワーカーの「地域に暮らす生活者の視点」を生かして、地域の人が気軽に集えるお店づくりを組合員と共にすすめています。

家計とくらしのワーカーズ 円縁

4年前に初めてのオールグリーンコープワーカーズとして発足し、現在16人のメンバーで活動しています。「家計とくらしの応援活動」に加え、2011年度はワーカーズ間の助けあいの仕組みとして「ワーカーズ共済」を福祉ワーカーズ連合会と共に開発。5月より共生ネット小額短期保険(株)代理店として推進しています。「ワーカーズ共済」は、私たちワーカーが安心して仕事が継続できることで、

生活再生ワーカーズととも

経済的な困難を抱える相談者の生活再生をサポートする生活再生事業がスタートして5年。これまでに1200件の相談、7億円の貸付を行ってきました。2010年秋、相談員が単協の枠を越え力を発揮していくために、ワーカーズを立ち上げました。生活再生事業を共に担う、家計とくらしのワーカーズ円縁とは、2年目となる家計調査研究でも連携して取り組んでいます。現在、8つの相談室(ふくおか・くまもと・おおいた・やまぐち・長崎)の5単協のワーカー18人で、福祉活動組合員基金の助成を受けながら、「ともに」の名の通り、相談者に寄り添い、ともに考え、相談者の生活の再生につながるよう、相談事業を行っています。ワーカー同士が互いに切磋琢磨しながら、相談員としてのレベルアップに努めていきたいと思ひます。

ワーカーズ運動と事業の広がりやに寄与できる仕組みの一つです。その他、グリーンコープ共済の給付業務、各単協の家計簿クラブでの学習会、ライフプランなどの学習会(講座)、PTAや学校の学習会など活動の幅も広がってきました。今後はワーカーがさらに力をつけて、地域からの要請にも積極的に応えていきたいと考えています。

脱原発
講演会
報告

東京電力の原子力発電所の 事故を直視し、今何をすべきか

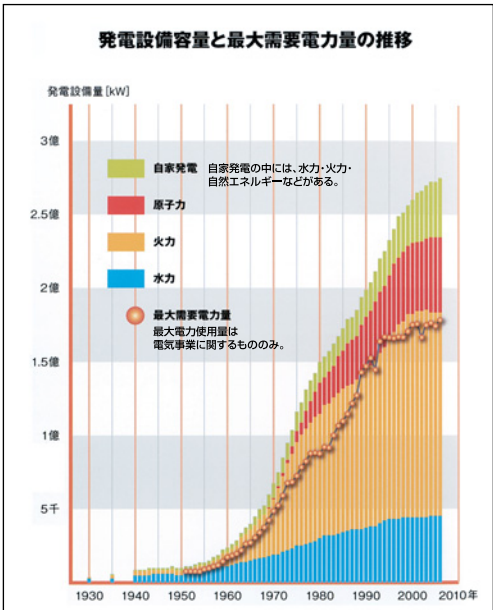
東京電力の原子力発電所の事故では、3機の原子炉がメルトダウン（炉心熔融）し、4機すべてから放射能が現在も放出され続けています。この未曾有の事故に大気も土壌も水も汚染され、多くの人々が被曝し、誰もが不安の渦中にあります。

この悲劇を二度と繰り返さないためには、日本にあるすべての原発を止めなければなりません。それは、今を生きる私たちの使命ともいえます。藤田祐幸さんはそのことを強く訴えました。地域運動交流集会（本紙8、9面に掲載）での藤田祐幸さんの講演要旨を紹介します。



ふじた ゆうこう
藤田 祐幸さん

■プロフィール 1942年千葉県生まれ。元慶應義塾大学助教授。グリーンコープ共同顧問、グリーンコープの放射能測定室設置などに助力。チェルノブイリ汚染地域、コンボ、イラクの劣化ウラン弾などを調査。著書多数



この図からは、原子力発電を全て止めても電力は賚るといことが分かる。

出典：子どもたちに伝えたい ―原発が許されない理由 東邦出版
（図の最大需要電力量は、電力会社が給電した分に対する需要。自家発電を使用した分は含まれません）

1979年アメリカのシリマイル島の原発事故、1986年ウクライナ（旧ソ連）でのチェルノブイリ原発事故、そして2007年の新潟県中越沖地震でずたずたになった柏崎刈羽原発の惨状。こうした状況から原発の事故が起これば、誰にでも分かっていたことだ。にもかかわらず、東京電力の原発事故を未然に防ぐことはできなかった。この事実の重さは計り知れない。

大気・海・大地の放射能汚染による第一次産業の崩壊

この事故ですべての生命の源である大気や土壌、水に放射能が入ってしまった。土壌にいたるおびただしい数のバクテリアは、生命にとって不可欠な微量元素であるミネラルをストックする能力を持つている。しかし、そのバクテリアがセシウムやストロンチウムなどの放

生協運動が対峙しなければならぬ現実

放射能汚染から身を守るには、放射能を避けるしかない。わが子を守るためには、汚染地域の生産物は食べさせないという方法しかない。となれば、その地域の生産者は生産を続けることができず、生活が成り立たない。生命と暮らしを守るために手を携えてつづけてきた生産者と消費者との

共生は、崩れてしまうことになる。

この事故によって、小さな島国である日本は、汚染地域と非（軽）汚染地域という大きな亀裂を抱えることになってしまった。福島県の浜通り、中通りから群馬県、栃木県に至る非常に深刻な汚染地域。新潟、長野、山梨、神奈川、東京などは、深刻な汚染地域ではないが、そこで子どもを育てることは、非常に考慮しなければいけない。汚染地域の人々の生命と暮らしに、非（軽）汚染地域に生きる私たちがどのように向きあえばよいか、大きな問題だ。

終わりの見えない悲劇

チェルノブイリ原発では、事故から25年経っても、事故を起こした炉は手が付けられないままに石棺といわれるシェルターに覆われている。そのシェルターも、損傷が激しく作り直さねばならない状況だ。1機の原発の事故でこの状況。今回の事故では4つの原子炉が崩壊した。しかも、原子炉の中の核燃料の状態すら分かっていない。とても人が近づける状況にないのだ。この原発事故の終息はおそらく100年経っても不可能だろう。

また、チェルノブイリ事故では、人が居住してはいけないとされた範囲に、日本では今回の原発事故の場合、25の市町村があり157万人が暮らしているのだ。そこには30万人くらいの子どもたちが居る。この子どもたちが5年後、10年後にどういう健康被害に襲われることになっていくのか。避けることができない最も重要な課題だ。

私が原子力に反対する3つの理由

- 1、大事故が起これば、絶対に取り返しのでないことになる。
- 2、原発は、現場で働く労働者の被曝なしには稼働できない。
- 3、危険な原発の現場で働く労働者の多くは、路上生活者など社会的弱者。今回の原発事故後の処理を行っての構造から得られるエネルギーなのだ。

原子力発電所から出る放射性廃棄物は、使用済み核燃料や作業員が使用した衣服など多岐に渡る。さらに運転が終了した原子力発電所の解体時には、放射能を持った原子炉そのものが放射性廃棄物となってしまう。今回の原発事故でも原発の建屋や周辺の機材など高濃度に汚染された膨大な放射性廃棄物が発生したのだ。無毒化する技術もなく、それらは半永久的に放射能を出し続ける。放射性廃棄物はその毒性の強さと、持続

性に於いて到底人間の扱えるものではない。
原爆より広範囲な被害をもたらした今回の原発事故

広島・長崎に落とされた原爆と原発はウランに中性子をぶつけて核分裂を起こすという意味では、同じ原理。しかし、今回の東京電力の原発事故による被曝者は、広島・長崎の被爆者をはるかに上回る。

広島・長崎の原爆で炸裂したウランやプルトニウムはそれぞれ1kg以下の量。そこで生み出された死の灰も同量の1kg以下だった。原爆の死の灰は、きのこ雲となって成層圏に上り拡散した。その放射能の数パーセントが黒い雨となり、その雨にうたれて被曝し、深刻な被害を受けた人々もいる。広島・長崎の汚染地域は35km圏内だった。

一方、原発では30tのウラン燃料が原子炉に搭載されており、その3.5%のウランが核分裂する。その結果1年間に作り出される死の灰の量はおよそ1t、原爆の1000倍にもあたる。

また、今回の原発事故では原子炉が300℃を超え、放射性元素が気体になって外に放出され、外気の中で固体になり、放射能雲の中のチリとなり風に乗って運ばれ、雨になって大地に降り注いだ。汚染地域は300、500km圏内に及ぶ。規模の違いは歴然だ。

誰がこの現実と未来に責任を負うのだ

日本は、広島・長崎の悲惨な経験から、非核を誓って戦後の社会をつくってきた

たのに、政府は原子力の平和利用という詭弁をもって、この小さな地震列島に54もの原発をつくってきた。そして、今回、未曾有の事故が起これば、原子力政策は破綻した。にもかかわらず、政府や電力会社は、原発は安全であると言い直しはじめている。経済産業省は本気で原発再稼働に取り組もうとしている。原発から利益を得ている自治体も同様だ。稼働すればするほど、使用済み核燃料という死の灰を出し続け、何世代にもわたる負の遺産を残すことになる。誰がどう責任を取るのだろうか。放射能に汚染された大地は100年後、1000年後も残るのだ。

立ち上ろう、生命と暮らしを、未来の子どもたちを守るために

現在、日本の原発の多くは、震災や定期検査のために停止している。このままであれば2012年には、すべての原発が止まることになる。当面の課題は運転再開を阻止することだ。

原子力産業に関係する科学者や利益を享受する人々は、こそって安全性や電力不足、産業の停滞を口にしている。しかし、例えば九州でも玄海や川内の原発が事故を起こせば、放射能汚染地域に住まざるを得ない。便利さや快適さのために、家族の健康を、未来の子どもたちの生命を危機に陥れてよいのだろうか。

大気と大地と海をこれ以上汚さないために「原発」も、核燃料サイクルの中心である「もんじゅ」も、「六ヶ所再処理工場」も断固として止めなければならない。

みやざきで介護保険事業がスタート



「グリーンハートおたすけオバちゃんズ」のみなさん
前列左から2人目が田崎さん

みやざきでは、2009年に5年越しの検討を経て、福祉活動組合員基金(100万円)が実現しました。その5年間に、福祉委員会の立ち上げ、子育てサポートワーカーズの設立、地域福祉活動ニュース「夢ヲかたちに通信」の発行などを行ってきました。2008年には、「自分たちの老後を安心して迎えたいから、その担い手を自分たちでつくる」という思いをもった組合員3人がたすけあいワーカーズを立ち上げました。ワーカーズの名称は「グリーンハートおたすけオバちゃんズ」。グリーンハート生協ふくおかの組合員の紹介で、宮崎で一人暮らしをしている高齢者の生活応援から事業をはじめました。みやざきの100万円基金の助成を受けながら、高齢者の介護から産

前産後のケアまで、幅広い年齢層を対象にした生活応援事業を行ってきました。生活応援事業をスタートさせた3年後に、それまで生活応援をしてきた利用者の一人が介護保険を利用することになりました。このケースをきっかけに、介護保険事業に取り組みかどうかの検討をはじめました。「利用者の最期までトータルにかかわりたい」、「ワーカーズとして経営的にも自立できるようにしたい」という思いを実現するために、ワーカーズとして介護保険事業に参入することを決めました。2011年6月のグリーンハート生協みやざきの第14期通常総代会で介護保険事業参入について可決承認され、社会福祉法人グリーンハートとして「ふくしサービスセンター」の名称で介護保険事業者の登録を行い、2011年10月から事業スタートの運びとなりました。

介護保険事業開始を記念して、9月29日には「住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために」というテーマで、認知症の介護についての地域福祉講演会を開催。利用者とその家族や組合員、地域の人など53人の参加がありました。家族として、地域で共に暮らす人として、認知症にどのように向きあっていけばよいのかを考える

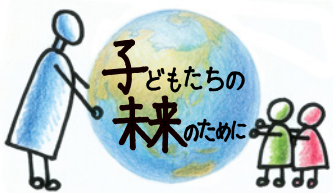
社会福祉法人グリーンハートでは、これまで、広島、山口、福岡、熊本、大分、鹿児島、佐賀、長崎の各県で介護保険事業を行ってきました。2011年10月、グリーンハート生協みやざきは、社会福祉法人グリーンハート「ふくしサービスセンター」を立ち上げ、宮崎県でも介護保険事業を開始しました。介護保険事業を担う、たすけあいワーカーズ「グリーンハートおたすけオバちゃんズ」代表の田崎佳子さんに話を聞きました。

報告

台風12号カンパへのご協力ありがとうございました

グリーンハートの14単協の合計金額は
10,617,800円

台風12号は、近畿・中国地方、北海道など広い範囲にわたって甚大な被害をもたらしました。グリーンハート各単協は、9~10月(カタログGREEN26~30号)の期間、台風12号による被災者へのカンパに取り組みました。集まったカンパ金は各単協より、被災したジュース用(加工用)トマトの生産者や各県の日本赤十字社の支部、自治体などに届けました。寄託先を通して、台風12号で被災した地域の復旧や被災者の支援に役立てられます。



No.40

六ヶ所再処理工場について

原子力発電所が生み出す核分裂生成物は、使用済み核燃料として取り出されます。青森県にある六ヶ所再処理工場では、全国の前処理から運ばれる年間約800トンの使用済み核燃料を再処理する計画です。

再処理とは、原子炉の中でプルトニウムなどの核分裂生成物を閉じ込めていた燃料棒を細かく切り裂き、硝酸に溶かして化学的にプルトニウムを分離する操作です。

しかし、これまではトラブル続きで本格稼働の延期が18回も繰り返されています。再処理工場が本格稼働すれば、原発が1年で放出する放射能を1日で放出するといわれています。工場の排水口は沖合い3キロ、深さ44メートルの海底に設置されていますが、このことは放射能を拡散し汚染を広げてしまうことを意味します。

生命(いのち)を脅かす放射能をこれ以上、海や空に捨ててはいけません。

参考文献 「隠される原子力 核の真実」小出裕章 創史社
グリーンハート生協ふくおこ共同組織委員会

言・い・た・い

投稿欄

私の好きなグリーンハート商品

甘くていい香りの人参
そもそもグリーンハートのおつきあいは、第1子妊娠中に食事に気をつけたいと思ったことから始まりました。そして産後は離乳食として少しでも安心安全なものを食べさせたいなあと考え、現在まで利用させていただいています。

そんな私の一番のお気に入りには人参。市販品とはまったく味が違います。初めて口にした時には「えっ、人参ってこんなに甘くていい香りがあるんだ」と感動しました。それからわが家では、グリーンハートの人参は常備野菜となりました。一度食べたら市販品は食べられませんでした。6歳の娘と2歳の息子もそんなグリーンハートの人参が大好き。離乳食期にもモリモリ食べてくれました。子どもたちには野菜のおいしさを、グリーンハートの野菜を通じて知ってもらいたいと思っています。

グリーンハート生協(鳥根) 木原 陽子

産直豚カラスライスは95点

私はグリーンハート商品を「安心」を第一に利用させてもらっている。豚肉は市販のは特有の臭いがするが、グリーンハートの臭いがないので、飼育環境や食べさせる餌がやっぱり違うのかななんて納得している。特にいつも注文するのは「産直豚カラスライス」である。赤身が多く脂肪分も適度に入っていて旨みがある。何の料理にも使っている。豚汁に煮物に炒め物に、塩ポイルしてサラダの上に、野菜を巻いてソテーに、みりんや醤油に漬けておいて粉をまぶして油で焼いて弁当のおかずにするには焼肉にも使っちゃう。ただ煮過ぎるとかたくなるので注意したい。しかし、「産直豚カラスライス」はヘルシーで旨くて、万能で、安いという、わが家では95点をつけたい食材なのである。

グリーンハート生協(鳥根) 川崎 君子

投稿募集中

- 400字程度
- 毎月月末
- 住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
- 住所・氏名などの組合員の個人情報は、本紙に掲載の場合のみ使用します。

テーマ わが家のエコ
私の好きなグリーンハート商品
〒812-8561
福岡市博多区博多駅前1丁目5-1
カーニープレイス博多3F
グリーンハートコミュニケーションワーカース連(REN)「共生の時代」編集部 宛
FAX 092-481-7876
Eメールアドレス rikoho@greencoop.or.jp



いま地域を考える

No.219

自然の中での体験で 子どもたちの生きる力を養いたい

ダイドック
冒険学校



代表の原康司さんと妻の真紀さん

世界中の海をシーカヤックで冒険していた原さんは、アラスカでエスキモーと一緒に生活した時に、生きるための知恵を自分には持っていないと気がついた。エスキモーの男たちはいいハンターであり、いい大工であり、いい医者である。生きていくために必要な身の周りのことを全部知っていると感じた。日本の子どもたちにも自然に還る場所が必要ではないか、本当の意味で生きていく力を学ぶ場をつくりたいという構想が浮かんできた。その後故郷の山口県に戻り、3年後に「ダイドック冒険学校」を設立した。

佐合島は高齢化がすすみ、子どもがまったくいない島だ。子どもたちは県内各地から冒険学校に参加している。最初、「冒険学校」開設の話を聞いた島の人たちは、どこか大きな団体がやってくるのだろうと思っていた。しかし、文字通り1人で準備をすすめる原さんを見て、冒険学校を温かく受け入れてくれた。今では、獲れた魚を子どもたちに差し入れてくれるなど、協力的だ。

瀬戸内海に浮かぶ周囲5kmの小さな島、佐合島(山口県平生町)に「ダイドック冒険学校」(以下、冒険学校)があります。代表の原康司さん(妻の真紀さんはグリーンコープやまぐち生協地区委員)が世界中を旅する中で出会い気づいた大切なことを、子どもたちに伝えるための学校です。真に実力のある人間とは? 「生きる」ということの本来の意味とは? これらを探求することをテーマに、2007年に設立されました。



佐合小学校跡地に立つダイドック冒険学校



見て、感じて、
体得する「生きる力」

冒険学校は、高学年の部(小3~中学生)と幼年部(4歳~小2)とに分かれている。高学年の部は子どものみ、幼年部は保護者同伴の参加で、現在、高学年の部は15人、幼年部は10組の親子が参加している。高学年の部は月2・3回、



▲大人も子どももいっしょに海岸の掃除「ごみがたくさんあるなあ」



◀海に落ちたフリスビーを拾うのに、島の人も協力してくれた。子どもたちは、島の人に会うと元気に挨拶する

冒険学校では、できる限り自給自足をしている。畑で野菜を育て、米作りも3年前からはじめた。子どもたちがかわるのは田植えと稲刈りくらいだが、お米を作り、生育していく過程を知ることが大切だと考えている。また、キャンプでは食材を自分たちで調達し

調理する。獲れた魚を捌き、食べられる野草を見分け、料理して食べる。冒険学校の建物も原さんの手作りだ。原さんは「家は自分の手で作れる、やろうと思えばできるということ」を、子どもたちに見て知って欲しい。電気も太陽光で自家発電。水も井戸水。電気はどうやってできるのか、水はどこからくるのか、自分たちの生活の成り立ちや仕組みを知り、自然の奥深さを感じて欲しい。それは、将来どんな仕事に就いても生かされることと語る。

幼年部は月1回開催されている。年に数回家族も参加できるプログラムがある。通常は原さんと妻の真紀さんの2人で運営し、必要に応じて知人などに応援を依頼している。

夏は海で遠泳やシーカヤック、冬はスキーやスノーシュートレッキング、登山やキャンプなどは季節を問わず行っている。「四季を通じて感じる」ことがある。美しい自然を見れば守りたいと思う。その場限りのものではない、自然を大切にしたい。自然を大切にしたいと原さん。

冒険学校のスタッフは指示することだけを極力控え、見守ることに徹している。中には指示待ちの子どものもいるが、そんな子は先輩が引っ張っていく。指示されなくても自分たちでやっていると。そんなつながりができている。親からは「おとなしい子だったが、物おじし

なくなった」いろいろなことを経験して、最後までやり遂げる喜びを感じたようだ」との声が聞かれる。毎年秋に、ひと夏お世話になったお礼の意味を込めて、佐合島の海岸の清掃を行っている。今年もテレビが打ち上げられていた。重くて1人では運べないテレビをどうやって移動させるか、3人の子どもたちで試行錯誤していた。大人が「リヤカーで運ぶ」といいか、とアドバイスすると、すぐに1人の子どもがリヤカーを取りに走った。リヤカーに乗せて運ぶ途中で脱輪したが、3人で力をあわせて元に戻し、そこからは1人が脱輪しないように誘導して、最後まで3人だけの力でテレビを運んだ。これには原さんも感嘆したと言っている。普通なら大人に助けを求めようかな場合でも、自分たちでなんとかしよう、という自主性が確かに育つてい

2011年10月の組合員数 395181人 (10/20現在)

| | | |
|--|--|---|
| リユースリサイクルデータ 2011年9月分 回収本数 893,952本 回収率 99.2% <small>(8月14日~9月17日回収分)</small> | 牛乳びん 回収本数 893,952本 回収率 99.2% <small>(8月14日~9月17日回収分)</small> | フードマイレージ 2011年10月までに組合員の利用によってたまったのは 135,503,943.1 CO2に換算して13,550トン削減したことになります |
| リユースびん 回収本数 170,056本 回収率 61.5% | トレー 回収重量 9,011kg 回収率 48.9% | アジア民衆基金 2011年10月までに組合員の利用によってたまったのは 22,522,428円 |
| モールドバック 回収重量 31,770kg 回収率 109.5% | 仕分け袋 回収重量 1,504kg 回収率 8.2% | |

放射能汚染測定結果は、別紙の残留放射能検査結果に掲載しています。

人間は自然がないと生きていけない

「ダイドック」とは、霧を意味する原さんのエスキモー名だ。「まず自然があって、人間はそれに従って生きていかなければならない、自然を守らなければならない、自然あつての人間。エスキモーから学んだ、日本人の多くが忘れてしまった価値観に敬意を表して命名だ。「冒険学校には教育理念的なものはない。自然の中で起こるハプニングから子どもたちが何を感じて何を学べるかが大切。そして、人間は自然がないと生きていけない。大事にすべきものは地球であり自然環境。それを心にとどめて大人になつて欲しい」と原さんは子どもたちへの思いを語った。

※かんじきのような靴を履いて雪の中で行う山歩き

共生の時代

別紙

●発行 グリーンコープ共同体理事会
 ●編集 共生の時代・編集部
 〒812-8561 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
 カーニープレイス博多3階
 ●電話 (092) 481-7923 ●FAX (092) 481-7876
 ●ホームページ: <http://www.greencoop.or.jp/>

放射能汚染と向きあう (放射能測定室より)



放射能検査機器CJ-NAI食品・放射能測定装置(キャンベラジャパン(株)製)
 自主基準10ベクレル/kgを正確に測定することができる性能を備えています

グリーンコープは、ずっと脱原発を主張してきました。しかし、地震多発国である日本には54基もの原子力発電所があります。結果として、私たちは原発事故を未然に防ぐことができませんでした。私たちは、これから放射能汚染と向きあっていくことになります。

グリーンコープは放射能測定室を設置し、取り扱う食品の放射能検査を強化しました。放射能汚染の実態をきちんと調べて、その情報を組合員みんなで共有していくことを、共同体の理事会で確認しました。12月号より、放射能測定結果は共生の時代別紙で報告します。

放射能測定結果については、共生の時代11月号までは、本紙に掲載(2007検体)として、お知らせしてきてきました。10月にはグリーンコープ放射能測定室を設置し、2台の測定器でこれまでより多くの検体を検査することが可能になりました。また、厚生労働省より9月29日に出された、放射能測定結果の表現の仕方についての通知を受けて、グリーンコープでは、2011年11月2日の理事会で下記のように結果を表現することを確認しました。

今後は毎号、共生の時代別紙で報告します。12月号では、10月3日以降の検査結果について報告します。
検査対象エリア
 グリーンコープは商品や原料について放射能汚染が心配される地域を、関東から東北地方と考えています。文部科学省から出されている(新聞で報道されている)大気中の「環境放射能水準調査結果」を基礎に、通常レベルより高いエリアについても検査対象としています。なお、対象エリア以外の商品でも、牛乳など日常的に多く摂取する商品及び椎茸など放射性物質を蓄積しやすい商品は検査することとしています。また、水産物については、近隣海域の放射能汚染状況が調査・公表されています。その情報などをとくに漁獲海域によって放射能検査をする対象を判断していきます。

2011年3月11日以降に、生産・製造・保管されている商品及び原料を順次検査していきます。定期的なサイクルで検査を行えるよう年間計画を立てて検査します。

検査対象
 2011年3月11日以降に、生産・製造・保管されている商品及び原料を順次検査していきます。定期的なサイクルで検査を行えるよう年間計画を立てて検査します。

検査結果の表記
 ヨウ素とセシウム134、セシウム137の3種類について結果をお知らせします。これまで、ヨウ素については半減期が8日と短く、事故の発生地点から離れた場所では影響が小さいことから検査対象から外してまいりました。しかし、厚生労働省からの指導を受けている自治体の公開情報では、ヨウ素もセシウム134、セシウム137と同様に検査と報告の対象となっていることから、グリーンコープでも検査の対象とすることにしました。

検査結果の表記
 ヨウ素とセシウム134、セシウム137の3種類について結果をお知らせします。これまで、ヨウ素については半減期が8日と短く、事故の発生地点から離れた場所では影響が小さいことから検査対象から外してまいりました。しかし、厚生労働省からの指導を受けている自治体の公開情報では、ヨウ素もセシウム134、セシウム137と同様に検査と報告の対象となっていることから、グリーンコープでも検査の対象とすることにしました。

東京電力の原子力発電所の事故を受けて行った残留放射能検査結果⑦

10月3日～11月1日に検査した64品目について、残留放射能は検出限界値未満でした。

※検査法の記号「Ge」はゲルマニウム半導体検出器での測定であることを示しています
 「NaI」はNaIシンチレーションスペクトロメータでの測定であることを示しています
 ※番号211～219、246～249は外部の機関に検査を委託したため、検出限界値は5Bq/Kgの整数表記となっています

| 番号 | 商品名 | 製造地・生産地 | 製造日・収穫日等 | 測定日 | 検査法 (Ge/NaI) | ヨウ素 | | セシウム-134 | | セシウム-137 | |
|-----|-----------------------------|-----------|---------------------------|-------------|-----------------|---------------|------------------|---------------|------------------|---------------|------------------|
| | | | | | | 結果 (Bq/kg) | 検出限界値 (Bq/kg) | 結果 (Bq/kg) | 検出限界値 (Bq/kg) | 結果 (Bq/kg) | 検出限界値 (Bq/kg) |
| 208 | 産直赤とんぼ米の鶏ごぼろピラフ | 栃木県真岡市 | 2011年 9月27日 製造 | 2011年10月 5日 | NaI | 検出限界値未満 | 3.96 | 検出限界値未満 | 6.34 | 検出限界値未満 | 6.26 |
| 209 | 産直赤とんぼ米の七穀炊込みご飯 | 栃木県真岡市 | 2011年 9月27日 製造 | 2011年10月 5日 | NaI | 検出限界値未満 | 4.12 | 検出限界値未満 | 6.77 | 検出限界値未満 | 6.62 |
| 210 | ポテトチップス(塩味) | 茨城県水戸市 | (原料バレイショ)2011年7月8日～12日 収穫 | 2011年10月 5日 | NaI | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 2.19 | 検出限界値未満 | 2.18 |
| 211 | 国産穀物を使った産直たまご | 福岡県飯塚市 | 2011年 9月 7日 採取 | 2011年 9月 9日 | NaI | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 |
| 212 | 韓国味付け海苔胡麻風味 | 千葉県佐倉市 | 2011年 8月24日 製造 | 2011年 9月 9日 | NaI | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 |
| 213 | 韓国味付け海苔胡麻風味 | 千葉県佐倉市 | 2011年 8月31日 製造 | 2011年10月 8日 | NaI | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 |
| 214 | 産直赤とんぼ米の鶏ごぼろピラフ | 栃木県真岡市 | 2011年 8月26日 製造 | 2011年 9月13日 | NaI | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 |
| 215 | ギフト)新潟産つぎもち詰め合わせ(よもぎもち) | 山形県全域 | (原料よもぎ)2011年春 収穫 | 2011年 9月30日 | NaI | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 |
| 216 | 産地指定米魚沼こしひかり(越後おひや農協小千谷) | 新潟県小千谷市 | 2011年 8月26日 収穫 | 2011年10月 3日 | NaI | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 |
| 217 | 産直赤とんぼ米【白米】(おもち農産) | 島根県邑智郡 | 2011年 9月12日 収穫 | 2011年10月 5日 | NaI | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 |
| 218 | 干し芋 | 茨城県ひたちなか市 | (原料さつま芋)2010年11月頃 収穫 | 2011年10月 6日 | NaI | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 |
| 219 | 産直赤とんぼ米と境産産紅ズワイのかにめし | 栃木県真岡市 | 2011年 9月27日 製造 | 2011年10月 6日 | NaI | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 |
| 220 | 産直人参(島原自然塾) | 長崎県島原市 | 2011年10月 7日 収穫 | 2011年10月11日 | NaI | 検出限界値未満 | 2.98 | 検出限界値未満 | 4.98 | 検出限界値未満 | 4.82 |
| 221 | 伊達巻(大) | 静岡県焼津市 | 2011年10月 8日 製造 | 2011年10月12日 | NaI | 検出限界値未満 | 4.01 | 検出限界値未満 | 6.54 | 検出限界値未満 | 6.28 |
| 222 | 草加せんべい(しょうゆ味) | 茨城県古河市 | 2011年 9月29日 製造 | 2011年10月11日 | NaI | 検出限界値未満 | 3.63 | 検出限界値未満 | 6.25 | 検出限界値未満 | 6.03 |
| 223 | 産地指定米ひとめぼれ【玄米】(みやぎ登米農協) | 宮城県登米市 | 2011年10月 4日 収穫 | 2011年10月12日 | NaI | 検出限界値未満 | 2.63 | 検出限界値未満 | 4.37 | 検出限界値未満 | 4.26 |
| 224 | 産地指定米ひとめぼれ【白米】(みやぎ登米農協) | 宮城県登米市 | 2011年10月 4日 収穫 | 2011年10月12日 | NaI | 検出限界値未満 | 2.39 | 検出限界値未満 | 3.84 | 検出限界値未満 | 3.77 |
| 225 | 産地指定米ささしき【玄米】(みやぎ登米農協) | 宮城県登米市 | 2011年10月 4日 収穫 | 2011年10月13日 | NaI | 検出限界値未満 | 2.65 | 検出限界値未満 | 4.34 | 検出限界値未満 | 4.24 |
| 226 | 産地指定米ささしき【白米】(みやぎ登米農協) | 宮城県登米市 | 2011年10月 4日 収穫 | 2011年10月13日 | NaI | 検出限界値未満 | 2.39 | 検出限界値未満 | 3.84 | 検出限界値未満 | 3.77 |
| 227 | 産地指定米あきたこまち【白米】(おものかわ農協) | 秋田県横手市 | 2011年10月 6日 収穫 | 2011年10月17日 | NaI | 検出限界値未満 | 2.35 | 検出限界値未満 | 3.80 | 検出限界値未満 | 3.70 |
| 228 | 産地指定米あきたこまち【玄米】(おものかわ農協) | 秋田県横手市 | 2011年10月 6日 収穫 | 2011年10月17日 | NaI | 検出限界値未満 | 2.50 | 検出限界値未満 | 4.08 | 検出限界値未満 | 3.98 |
| 229 | ギフト)戻りかつおとびんがまろく総合せ(びんがまろく) | 北太平洋 | 2011年8月上～中旬 漁獲 | 2011年10月18日 | NaI | 検出限界値未満 | 2.83 | 検出限界値未満 | 4.58 | 検出限界値未満 | 4.44 |
| 230 | ギフト)戻りかつおとびんがまろく総合せ(戻りかつお) | 北太平洋 | 2011年8月末～9月上旬 漁獲 | 2011年10月18日 | NaI | 検出限界値未満 | 3.09 | 検出限界値未満 | 5.06 | 検出限界値未満 | 4.87 |
| 231 | もりもりきのこC【エリンギ】(村田産業) | 宮崎県東諸県郡 | 2011年10月15日 収穫 | 2011年10月19日 | NaI | 検出限界値未満 | 2.82 | 検出限界値未満 | 4.73 | 検出限界値未満 | 4.56 |
| 232 | きのこ人気者セット【えのき茸】(村田産業) | 宮崎県宮崎市 | 2011年10月15日 収穫 | 2011年10月19日 | NaI | 検出限界値未満 | 2.62 | 検出限界値未満 | 4.28 | 検出限界値未満 | 4.10 |
| 233 | なめこ(オリエンタルフーズ) | 大分県日田市 | 2011年10月17日 収穫 | 2011年10月20日 | NaI | 検出限界値未満 | 2.68 | 検出限界値未満 | 4.46 | 検出限界値未満 | 4.32 |
| 234 | 白まいたけ(村田産業) | 宮崎県小林市 | 2011年10月17日 収穫 | 2011年10月20日 | NaI | 検出限界値未満 | 2.57 | 検出限界値未満 | 4.21 | 検出限界値未満 | 4.12 |
| 235 | もりもりきのこC【山伏茸】(村田産業) | 宮崎県小林市 | 2011年10月17日 収穫 | 2011年10月20日 | NaI | 検出限界値未満 | 2.79 | 検出限界値未満 | 4.64 | 検出限界値未満 | 4.47 |

| 番号 | 商品名 | 製造地・生産地 | 製造日・収穫日等 | 測定日 | 検査法 (Ge/Nal) | 放射能測定結果 | | | | | |
|-----|-----------------------------------|---------|----------------|-------------|-----------------|-----------|--------------|-----------|--------------|-----------|--------------|
| | | | | | | ヨウ素 | | セシウム-134 | | セシウム-137 | |
| | | | | | | 結果(Bq/kg) | 検出限界値(Bq/kg) | 結果(Bq/kg) | 検出限界値(Bq/kg) | 結果(Bq/kg) | 検出限界値(Bq/kg) |
| 236 | なめこ(村田産業) | 宮崎県小林市 | 2011年10月17日 収穫 | 2011年10月20日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.55 | 検出限界値未満 | 4.08 | 検出限界値未満 | 3.97 |
| 237 | もりもりきのこB[ぶなしめじ](村田産業) | 宮崎県東諸県郡 | 2011年10月15日 収穫 | 2011年10月21日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.25 | 検出限界値未満 | 3.76 | 検出限界値未満 | 3.63 |
| 238 | Web限定企画)まいたけ1株(村田産業) | 宮崎県小林市 | 2011年10月17日 収穫 | 2011年10月21日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.91 | 検出限界値未満 | 4.75 | 検出限界値未満 | 4.64 |
| 239 | エリンギ(綾町農協) | 宮崎県東諸県郡 | 2011年10月17日 収穫 | 2011年10月21日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.96 | 検出限界値未満 | 4.95 | 検出限界値未満 | 4.80 |
| 240 | ぶなしめじ(筑後大地の会) | 福岡県三浦郡 | 2011年10月18日 収穫 | 2011年10月21日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.76 | 検出限界値未満 | 4.46 | 検出限界値未満 | 4.31 |
| 241 | 生しいたけ(鶴床)(村田産業) | 宮崎県小林市 | 2011年10月16日 収穫 | 2011年10月25日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.64 | 検出限界値未満 | 4.42 | 検出限界値未満 | 4.26 |
| 242 | えのき茸(福岡市農協良グリーンセンター) | 福岡県福岡市 | 2011年10月17日 収穫 | 2011年10月24日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.64 | 検出限界値未満 | 4.22 | 検出限界値未満 | 4.10 |
| 243 | ホワイトマッシュルーム(オリエンタルフーズ) | 福岡県大川市 | 2011年10月16日 収穫 | 2011年10月25日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.73 | 検出限界値未満 | 4.55 | 検出限界値未満 | 4.38 |
| 244 | 産直りんご(シナノスイート)(なごの農協飯綱) | 長野県上水内郡 | 2011年10月17日 収穫 | 2011年10月26日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.64 | 検出限界値未満 | 4.44 | 検出限界値未満 | 4.30 |
| 245 | ブラウンマッシュルーム(オリエンタルフーズ) | 福岡県大川市 | 2011年10月16日 収穫 | 2011年10月25日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.65 | 検出限界値未満 | 4.24 | 検出限界値未満 | 4.10 |
| 246 | ギフト)大分県産どんこ椎茸 | 大分県全域 | 2011年4月上~中旬 収穫 | 2011年10月28日 | Ge | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 |
| 247 | ギフト)大分県産どんこ椎茸 | 大分県竹田市 | 2011年3月下旬 収穫 | 2011年10月31日 | Ge | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 |
| 248 | ギフト)松下博元作大分県産椎茸詰め合せ | 大分県日田市 | 2011年4月上~中旬 収穫 | 2011年10月28日 | Ge | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 |
| 249 | ギフト)椎茸昆布詰め合せ(どんこ) | 長崎県対馬市 | 2011年3~5月 収穫 | 2011年10月31日 | Ge | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 | 検出限界値未満 | 5 |
| 250 | 国産ビーナッツのクリーム | 栃木県黒磯市 | 2011年10月20日 製造 | 2011年10月31日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.52 | 検出限界値未満 | 4.19 | 検出限界値未満 | 4.02 |
| 251 | 国産黒豆さなぎのクリーム | 栃木県黒磯市 | 2011年10月21日 製造 | 2011年10月31日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.65 | 検出限界値未満 | 4.24 | 検出限界値未満 | 4.16 |
| 252 | 産直人参(熊本県豊農会野菜部) | 熊本県上益城郡 | 2011年10月23日 収穫 | 2011年10月26日 | Nal | 検出限界値未満 | 3.01 | 検出限界値未満 | 5.03 | 検出限界値未満 | 4.84 |
| 253 | 産直りんご(シナノスイート)(ハケタ会) | 長野県長野市 | 2011年10月18日 収穫 | 2011年10月27日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.51 | 検出限界値未満 | 4.04 | 検出限界値未満 | 3.94 |
| 254 | 産直りんご(秋映)(信濃五岳会) | 長野県上高井郡 | 2011年10月 7日 収穫 | 2011年10月27日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.63 | 検出限界値未満 | 4.33 | 検出限界値未満 | 4.21 |
| 255 | 産直人参(中村グループ) | 福岡県久留米市 | 2011年10月26日 収穫 | 2011年10月27日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.81 | 検出限界値未満 | 4.61 | 検出限界値未満 | 4.45 |
| 256 | 産直人参(グリーンあさくら) | 福岡県朝倉郡 | 2011年10月26日 収穫 | 2011年10月28日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.79 | 検出限界値未満 | 4.69 | 検出限界値未満 | 4.50 |
| 257 | 産直りんご(早生ふじ)(津軽みらい農協石川) | 青森県弘前市 | 2011年10月15日 収穫 | 2011年10月27日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.54 | 検出限界値未満 | 4.20 | 検出限界値未満 | 4.05 |
| 258 | 産地指定米こしひかり[白米](みな穂農協) | 富山県下新川郡 | 2011年 9月28日 収穫 | 2011年10月28日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.36 | 検出限界値未満 | 3.82 | 検出限界値未満 | 3.74 |
| 259 | 予約米の旅コシヒカリ[玄米](佐渡農協) | 新潟県佐渡市 | 2011年 9月20日 収穫 | 2011年10月29日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.60 | 検出限界値未満 | 4.30 | 検出限界値未満 | 4.14 |
| 260 | 予約米の旅コシヒカリ[白米](佐渡農協) | 新潟県佐渡市 | 2011年 9月20日 収穫 | 2011年10月29日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.31 | 検出限界値未満 | 3.70 | 検出限界値未満 | 3.63 |
| 261 | 産地指定米こしひかり[玄米](みな穂農協) | 富山県下新川郡 | 2011年 9月28日 収穫 | 2011年10月28日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.40 | 検出限界値未満 | 3.87 | 検出限界値未満 | 3.77 |
| 262 | 常盤産しらす干し(いわし稚魚) | 茨城県鹿嶋沖 | 2011年 9月17日 漁獲 | 2011年10月31日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.47 | 検出限界値未満 | 2.77 | 検出限界値未満 | 3.91 |
| 263 | 常盤産しらす干し(いわし稚魚) | 茨城県大洗沖 | 2011年 9月17日 漁獲 | 2011年10月31日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.28 | 検出限界値未満 | 3.64 | 検出限界値未満 | 1.84 |
| 264 | 産地指定米こしひかり[玄米](福島県みずほ農園) | 福島県河沼郡 | 2011年10月18日 収穫 | 2011年11月 1日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.39 | 検出限界値未満 | 3.82 | 検出限界値未満 | 3.72 |
| 265 | 炊き込みごはんの素五目 | 長野県須坂市 | 2011年 9月10日 製造 | 2011年11月 2日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.18 | 検出限界値未満 | 3.54 | 検出限界値未満 | 3.43 |
| 266 | 炊き込みごはんの素きのこ | 長野県須坂市 | 2011年10月 6日 製造 | 2011年11月 2日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.17 | 検出限界値未満 | 3.44 | 検出限界値未満 | 3.36 |
| 267 | 五日寿司の素 | 長野県須坂市 | 2011年10月 7日 製造 | 2011年11月 2日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.04 | 検出限界値未満 | 3.29 | 検出限界値未満 | 3.20 |
| 268 | うす塩味なめ茸 | 長野県須坂市 | 2011年 9月12日 製造 | 2011年11月 2日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.26 | 検出限界値未満 | 3.60 | 検出限界値未満 | 3.48 |
| 269 | 産直人参(綾菜会) | 宮崎県東諸県郡 | 2011年10月30日 収穫 | 2011年11月 3日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.80 | 検出限界値未満 | 4.68 | 検出限界値未満 | 4.54 |
| 270 | ひらたけ(村田産業) | 宮崎県小林市 | 2011年10月31日 収穫 | 2011年11月 4日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.45 | 検出限界値未満 | 3.96 | 検出限界値未満 | 3.85 |
| 271 | 産直赤とんぼAひのひかり(農業不使用)[白米](筑後減農薬研究会) | 福岡県筑後市 | 2011年10月18日 収穫 | 2011年11月 7日 | Nal | 検出限界値未満 | 2.31 | 検出限界値未満 | 3.71 | 検出限界値未満 | 3.63 |

検査結果については、ホームページでも週に一度のペースでお知らせします

シリーズ(3)
被災地復興の今

地域運動交流集会での被災地からの報告

2011年10月26日にグリーンコープの組合員・ワーカーズ約900人が集った地域運動交流集会に、被災地から、^{※1} 蛤浜の亀山秀雄区長をはじめ4人のゲストが参加しました。

支援をはじめて半年を迎えました。想像を絶する大規模な災害を受けて、現地



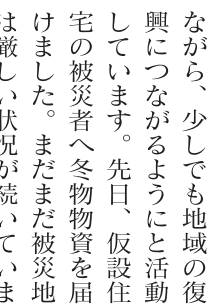
まだまだ悲惨な状況が続いています
継続した支援が必要です
共生地域創造財団事務局
小笠原啓太さん

グリーンコープの皆さんの心温まる支援に感謝しています。地震と津波で途方に暮れていた時に、奥田さん(共生地域創造財団)理事長で社会福祉法人グリーンコープ副理事長)と出会い、グリーンコープの皆さんから支援していただくようになりました。瓦礫の撤去から、暑い中で牡蠣の養殖棚を作る作業などと一緒にしてくれました。見切り発車で養殖の再開をしましたが、その援助だけでなく、牡蠣の販売まで、一緒に考えてもらいました。現地に留まり支えてくださる方もいます。蛤浜の仲間を代表して感謝申し上げます。グリーンコープの皆さんに牡蠣をお届けできるように頑張っていきます。



温かい支援に感謝しています
蛤浜の区長
亀山秀雄さん

多くの支援団体と連携しながら、少しでも地域の復興につながるようにと活動しています。先日、仮設住宅の被災者へ冬物物資を届けました。まだまだ被災地は厳しい状況が続いています。人的な支援も含めた多くの支援を継続していきたく考えています。

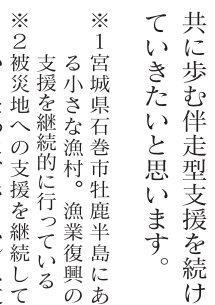


共同事業として支援物資を届けることからはじまりましたが、蛤浜の牡蠣養殖の再開のための作業や高橋徳治商店の汚泥の清掃作業などには、1000人を超えるボランティアの参加がありました。グリーンコープの皆さんにもボランティアでかかわってもらっています。さらに、農業の復興支援として、使えなくなった田んぼにナタネを植える作業などにも携わっていただきました。

10月22~24日の理事会メンバー被災地視察で撮った写真。台風の影響でコンテナなどが打ち上げられた蛤浜のようす(右)と陸前高田市のようす(下)



大船渡市の復興をどのようにすすめていくのか、支援活動を行うNPOや民間団体に加え、民生委員や行政担当者などにも参加してもらい、今後の支援に関する検討会議を6月から13回コーディネートしています。これから厳しい冬を迎える被災地では今支援の格差が顕在化しています。支援の届いていないところに少しでも支援物資を届ける活動を続けていきます。前を向いて動き出した被災者に共に歩む伴走型支援を続けていきたいと思っています。



共生地域創造財団岩手事務局
大関輝一さん

※1 宮城県石巻市牡鹿半島にある小さな漁村。漁業復興の支援を継続的に行っている。
※2 被災地への支援を継続していくために、ホームレス支援全国ネットワーク、生活クラブ生協とグリーンコープで設立した一般財団法人

